

香港で社会運動に参加したインドネシア人家事労働者による

「価値の創造」と帰国後のライフコース選択

天理大学 澤井志保

ニューヨーク州立大学 Djoko Sayogo

【1. 目的】移住家事労働のグローバル化により、国際移住家事労働者による社会運動が活発化している。国際移住家事労働を「非熟練」部門の経済的移住の一形態とするならば、社会運動に参加することで移住家事労働者は、どのような価値やスキルを得ているのだろうか。そしてこのような価値の創造は、移住家事労働者の帰国後のライフコースにどのような影響を及ぼすのか。これらの問いを踏まえて報告者は、家事労働者の社会運動が活発な香港で社会運動グループに参加したのちに帰国したインドネシア人の元・家事労働者を対象に、社会運動への参加経験が帰国後のライフコースにどのように影響するかについて予備的調査を行った。この結果をもとに、ホスト国での永住権が取得不可能な移住家事労働者の帰国後の生活において、社会運動参加経験と経済的、文化的、社会的、経済的付加価値、そして職業選択がどう結びついているかを検討する。

【2. 方法】香港で家事労働者として働きながら、(広義の)社会運動グループに参加した経験のあるインドネシア人帰国者を対象に、質問票調査を実施した。この調査の回答と併せて、調査者が回答者の現住所を訪問し、追加インタビューを実施したフィールドデータをもとに、キーワード分析を行った。

【3. 結果】質問票の回答から、大多数の回答者が(1)香港在住時には複数の社会運動・各種活動グループに参加していた (2)その経験から経済的、文化的、社会的、宗教的付加価値を得た (3)香港での社会運動・各種活動経験は、帰国後の起業に影響している (4)香港での社会運動・各種活動経験は、帰国後に回答者が担う女性としての役割に良い影響を及ぼした (5)移住労働の過程でカルチャーショックを経験した と考えていることがわかった。

【4. 結論】上記回答結果をクロス集計したところ、回答者にとっての(広義の)社会運動参加経験は、経済的付加価値よりも社会的、宗教的付加価値により緊密に結びついていた。加えて回答者は、(広義の)社会運動参加経験が、自信や自尊心を高めたと感じており、回答者が培った自信は、起業精神を後押ししたとも考えていた。これにより、国際移住家事労働者の社会運動参加経験において、社会的、宗教的付加価値と自信の向上、起業というキーワードが今後の研究の手がかりとして浮かび上がった。